

第7回伊賀市総合計画審議会 議事概要

開催日時	2025（令和7）年2月7日（金） 10:00～12:00
開催場所	本庁舎 4階 庁議室
出席委員	岩崎 恭彦 （【1号委員】三重大学人文学部） 久 隆浩 （【1号委員】近畿大学総合社会学部） オチャンテ 村井 ロサ メルセデス（【1号委員】桃山学院教育大学人間教育学部） 片桐 新之介（【1号委員】合同会社C.SSS コーポレーション） 朴 恵淑 （【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 奥井 公子 （【2号委員】公募委員） 成底 正好 （【2号委員】公募委員） 山本 いずみ（【2号委員】公募委員） 高井 篤史 （【3号委員】伊賀市消防団） 荒井 恵美子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 船見 くみ子（【3号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会） 増田 政俊 （【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納 圭子 （【4号委員】 — ）
欠席委員	奥西 利江 （【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会）
議事日程	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）前回までの振り返りについて （2）第2章 構想（案）について （3）分野別施策に係る意見一覧及び施策照会シートについて 4 その他 ・スケジュール
議事概要	1 開会 （事務局）：定刻となりましたので、ただいまから、第7回伊賀市総合計画審議会をさせていただきます。 ★会議及び議事録公開の確認 （事務局）：なお、会議の公開ですが、「伊賀市審議会等の会議の公開に関する要綱」第3条により、会議を公開し、会議の傍聴を認めておりますので、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いいたします。 また、会議録についても公開させていただきますので、ご了解よろしくをお願いいたします。

★会議成立の確認

（事務局）：本日の会議の成立でございますが、「伊賀市総合計画審議会条例」第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

★資料の確認

（事務局）：次に、資料につきましては、メールにて送付をさせていただきましたが、本日、印刷したものを置かせていただきました。
それではお手元の事項に沿って進めさせていただきます。

2 あいさつ

（事務局）：会長から挨拶をいただきます。

＜会長＞：皆様、本年もよろしくお願いします。前回は市長から、公約と所信表明についてお話しいただきました。市長が掲げた公約と、私たち委員の視点から見てどういうまちにしたいか、それぞれの立場で発言いただき、市長の公約と整合性を取って総合計画の案を作っていきたいと思います。

3 議事

＜会長＞：事項（１）「前回までの振り返り」について事務局から説明をお願いします。

—事務局 事項（１）「前回までの振り返り」、資料１「第２章構想（案）」、参考資料１「新しい総合計画の体系・めざす姿（案）」、参考資料３「伊賀市人口ビジョン」説明—

＜会長＞：ただ今、変更点についてご説明いただきました。ご質問いかがでしょうか。

— 質問なし —

それでは、事項（２）「第２章構想（案）」についてご説明をお願いします。

—事務局 事項（２）「第２章 構想（案）」、資料１「第２章構想(案)」、参考資料２「目次、第１章はじめに」説明—

＜会長＞：資料１「第２章構想(案)」の１ページの「将来像の決定までの過程（イメージ）」について、委員の皆様には、将来像のアイデアについて意見をいた

だきたいと思います。

また、3 ページ、「テーマ3 【これからの自治】つながりを結び直す」については、3 つの将来像の実現に向けた方針となっています。これまでも、個々の施策に対し、いかにして横ぐしを通すかが議論になってきたと思いますが、横ぐしを通す手掛かりになるテーマになりますので、ここについても意見をいただければと思います。

＜委員＞：資料1「第2章構想(案)」について2点意見があります。1点目は、(1)「将来像」に関して、第2次伊賀市総合計画のキャッチフレーズは「勇気と覚悟が未来を創る」でしたが、次期計画では「覚悟」ではなく「挑戦」とし、「勇気と挑戦が未来を創る」としてはどうでしょうか。

2点目、テーマ3「【これからの自治】つながりを結び直す」について、「参加と協働によるまちづくりを進める」と書かれていますが、みんなで一緒に実践していくという意味を込めて「参画」としてみてはどうでしょうか。

＜会長＞：委員の皆様からの率直な意見や考えをいただきながら進めていきたいと思っています。

＜委員＞：参考資料2「目次、第1章はじめに」の29ページ「②継承と変革」でのDXについての記載に関して、行政の業務のデジタル化も大事ですが、地域社会全体のDXという視点も大事ですので、地域社会から変革していくという文言が必要だと思います。

＜会長＞：重要なところですので、将来像の案のアイデアや、3つのテーマについて一人一人意見をいただきたいと思います。

＜委員＞：資料1の「2. 計画のテーマ」に関して、「①テーマ1【人づくり】こどもが育つ、大人も育つ人づくり」では「すべてのこども」と表記していただきたいです。

＜委員＞：資料1の「2. 計画のテーマ」に関して、「③【これからの自治】つながりを結び直す」の「参加と協働によるまちづくりを進める」の部分について、市長との対話だけでなく市民どうしの対話も重要になってくると思います。

また、様々な年齢層に合わせたワークショップが行われていると思いますが、そうした情報を共有することで、市民も市政に参画しようと思えるので、ワークショップなど情報を共有して総合計画の策定を進めてほしい

	と思います。 ＜委員＞：資料１の「テーマ２【継続と変革】持続可能なまちを未来に引き継ぐ」の「地域経済の好循環を生み出す」という表現は焦点がぼやけていると思います。「経済」とは具体的に何を表しているのかが分かるような書き方にしたいと思います。 ＜委員＞：伊賀市には地域資源や強みがあると思います。観光や農業の面で、強みを活かせてないと思います。強みを活かしていくということを目指していただけたらと思います。 ＜委員＞：資料１の「テーマ３【これからの自治】つながりを結び直す」の「国や県との適切な関係づくりや、広域連携を進める」について、「適切な関係づくり」という表現に違和感を覚えます。 ＜委員＞：資料１の３ページに関して、DX や GX という言葉の説明が欲しいと思います。 また、「国や県との適切な関係づくり」という文章は、今までの適切ではなかったかのようにも捉えられますので、他の表現を考えていただきたいです。 ＜委員＞：将来像は短くてインパクトがあった方がいいと思います。提案として「幸せ舞い踊る伊賀市創り」はどうでしょうか。躍動感あふれる伊賀にしてほしいと思いますし、「舞」は一人一人が立ち上がるというイメージと重なると思います。「創り」は創造的というイメージです。 ＜会長＞：将来像については、第１次総合計画と第２次総合計画で「ひとが輝く・地域が輝く」という表現を継承してきましたが、第３次計画ではこの表現についても見直しの対象になってくるということでよいでしょうか。 （事務局）：継承することも大事ですが、新しい将来像を描くことも大事だと考えています。 ＜委員＞：パブリックコメントを取ることは大事ですが、市民の方々の多くがパブリックコメントがあることに気づいてないということが問題であると感じます。様々な媒体を通して市民に呼び掛けることで、パブリックコメントに気づくきっかけになるので、工夫していただきたいと思います。
--	--

＜委員＞：市の計画以外でも言えますが、計画を策定する際、みんなで一緒になって計画を作っていくことが難しいと感じます。みんなが参加してまちづくりを進めることが必要だと思います。

＜委員＞：3つのテーマのうち、継承と変革は良い言葉だと思いました。先人から受け継いできたものを考えた上で将来を考えていくという、時間軸で考えるという点で良い言葉だと思います。

先ほどの意見でもあった、「挑戦」という言葉は、変革の姿勢についての言葉だと思います。継承の姿勢についても何か良い言葉が欲しいと感じます。参考資料2の②「継承と変革」には変革の話が多いですが、継承の話が少ない印象を受けます。

地理や歴史は代々受け継いできたもので、地域性を理解するツールになると思います。伊賀市ではどういったことがベースになっているか強調する必要があります。例えば伊賀は関西という話があります。地形的に見ると関西から伊勢に抜ける際、超えやすいところは滋賀県になりますが、このことも伊賀と甲賀が忍者の地域としてつながっている理由として理解できます。こうして地形を見ると伊賀は関西であることが説明できます。

伊賀市を流れる川は西へ流れているので、西とつながっていくことは歴史的にも正しいことです。定住自立圏でも京都と奈良と連携していますが、西とつながることには意味があります。

資料1の3ページに関して、3つテーマのまとめ方はこれで良いと思います。

テーマ3の「【これからの自治】つながりを結び直す」について補足を見ると、しくみとは、人と人や地域と地域がつながって積み重なって見えてくるものなので、つながりを結び直すことは良いことだと思います。

結び直すとは、明治以降変わってないものを見直す時期ではないかということにもつながります。伊賀市は住民自治を大事にしていますが、江戸時代の村の仕組みは住民自治で成り立ってきました。もともと持っていた自ら地域を動かす力を取り戻すという意味でも「結び直す」という言葉は大切だと思います。

＜委員＞：テーマ2には「人口減少に対応する」と書かれていますが、人口減少を市民はどう捉えているのでしょうか。伊賀市学校未来構想でも、子どもの数が減ることから、校区の再編や統合、1クラスだけの学校は統合するなど、目の前の課題を解決することに考えが向いている傾向があります。総合計画ではこれからの10年を見据え、20代30代の市民が希望を持てる

ようなものにしてほしいと思います。市民の力を信じ、財源を確保し、展望も出してもらった総合計画にしていきたいです。

（事務局）：人口減少について補足説明をさせていただきます。参考資料3「伊賀市人口ビジョン（案）」の21ページについて、出生数はコロナ禍以前で600人、コロナ禍以後で500人と急激に減少している状況です。

社会動態で特に注視しなければならないことは、若者世代の転出超過です。生産年齢人口が減少していくことは受け入れ、人口が減少しても社会が機能する適応策を考えることが重要です。人口を展望するとき、出生数が現在の400人から改善するのか、減少していくのかが見通せないので、現段階では400人のまま継続することとしています。

＜委員＞：「継承と変革」に関して、人口減少に対応することは大事ですが、外国人や他地域からの転入も考えるのであれば、多様化も考えた人口減少への対応について計画に書けないでしょうか。外国人が多く住んでいることには理由があると思います。強みを計画に記載することでアピールする必要があると思います。

また、概要版の表紙に多様な方々が手を組んでいくというイラストがないので、アレンジしてほしいと思います。

＜委員＞：水道や電気、光ネットの課題などは若者の関心があると思います。伊賀市の水道料金は全国の中でも高い方だと思いますが、しっかりと調査し、分析していくことで課題を解決していく必要があると思います。

また、伊賀市は名古屋港と大阪港のどちらとも近いです。貿易を仕事にしている若者と話をしていて、伊賀市を貿易拠点にできないかという意見がありました。外から来る人に向けて伊賀市の魅力を出していくことができるよう調査ができないでしょうか。

＜会長＞：資料1の3ページについて、3つのテーマのまとめ方は適切だと思いますが、できれば、しくみづくりにも踏み込んでほしいと思います。3つのテーマを掲げて横断的にどういったしくみづくりができるかというところに踏み込んでいただけると、本気度も伝わるとと思いますので、ご検討いただければと思います。

＜委員＞：自分たちの課の施策を書くだけでなく、関連する施策について書いてもらうだけでも施策連携の意識付けになると思います。それが体制を変えることにつながると思います。章立ても施策連携を意識したものにしていただ

きたいと思います。

＜会長＞：残りの時間は事項３番についてご議論いただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

―事務局（３）「分野別施策に係る意見一覧及び施策照会シートについて」資料２「分野別施策に係る意見一覧」説明―

＜委員＞：資料２「分野別施策に係る意見一覧」の 78「定住・関係人口」に関して、移住者交流会で、伊賀市を移住先として選んだ理由や、移住して良かった点、良くないと感じた点をアンケートで聞いてくれています、参加されない方もいますので、SNS などで広くヒアリングすることができれば課題解決にもつながると思います。

また、観光についても横断的な連携が取れてないので、SNS で発信できる仕組みがあればペーパーレスにもつながりますし、多言語化できると外国からの観光客にも魅力が伝わると思います。

＜委員＞：４「環境」に関して、カーボンニュートラルについて記載する際は、できれば脱炭素社会（カーボンニュートラル）のように括弧書きにしたいと思います。また、市のホームページに関して、ホームページにアップされることは市の取り組みが主ですが、国や県で伊賀市と関連するものがあればリンクするなど、柔軟なやり方があると思います。

また、７「環境」に関して、公民連携とは、企業と企業、市民と市民のような形の連携は載らないのでしょうか。「産学官民の連携」など広い意味での表現ができるのではないのでしょうか。

＜委員＞：３「消防」に関して、AED 講習会は一般の方も受講していますので、災害時に活用できる仕組みに落とし込めないでしょうか。

また、AED の場所がどこにあるのかが分かるようになればよいと思います。

＜委員＞：成果指標について、取り組んだ回数ではなく、取り組んで効果があったかどうかを指標化できればよいと思います。

（事務局）：外部評価でのまちづくりアンケートと、庁内の内部評価を突合した評価においても、現行の指標が最適なのかという意見はいただいています。担当課が設定した指標が、活動指標ではないかという指摘を受けているもの

は、修正するよう伝えています。活動指標でしか出すことができない部署もあるので、成果指標にするよう努めますが、活動指標になっているものがあります。

＜委員＞：25「空き家バンク」に関して、「空き家バンクへの登録家屋数」ではなく、成立件数がふさわしいという意見ですが、他の自治体では空き家の所有者が手放したくないという理由で空き家の登録家屋数が増えないということが多くあります。丁寧な説明をして、投資を呼び込んで件数を増やしている自治体もあります。登録件数より成果を出した成立件数を指標とすることで、登録を呼ぶことにつながると思います。

また、資料1「第2章構想（案）」について、主語がないと感じました。誰が未来をつくるのかというところで、「市民が」つくるのだと思います。

＜委員＞：資料2で「×」と回答されているものは、修正することなく、計画にそのまま記載されるのでしょうか。また、35「人権・平和」での「外国人差別に関する取り組み」という質問については、修正はないということでしょうか。

（事務局）：この質問をいただいた委員さんに質問の意図を伺いましたが、担当課の考え方を聞きたいという意見でした。そのため、回答欄に考え方を記載しています。

＜委員＞：各課から回答が返ってきて、適切ではないと判断したものについては事務局でどう対応されていますか。

（事務局）：回答が不十分だったものについてはもう一度投げ返し、回答を得たものについては資料2で番号に枝番を付けて表示しています。

＜委員＞：50—1「生涯学習」の図書館の活用に関して、「図書館の2つの基本事業を1つにまとめ、「利用者数」「読み聞かせ等のイベント事業実施回数」の2つを指標とします」と回答をいただいています。事務事業としては、実施回数が大事だと思いますが、イベントをどこでやるか、何人を見込むのか、地域へ貸し出しするならどの地域なのかといった、どう活用されているかということを見ることが、図書館の機能を果たしていくための目標が持てると思います。

読み聞かせの実施回数だけではないと回答いただいています。意図が伝わってないと感じました。

＜委員＞：図書館について、新堂駅の図書館は官民連携で取り組まれているので、上野図書館だけに限定せず官民連携の観点から何かできないかと思いました。

＜委員＞：82-1、82-2「観光」に関して、伊賀米、伊賀牛をみんなが知っている前提で書かれていると感じます。伊賀の魅力が総合的に分かるよう、ホームページの内容を充実させていただき、多言語化してほしいと思います。

また、「ガストロノミーツーリズム及び農泊事業の推進に取り組むことができると思っています」と回答をいただいておりますが、集約して取り組むプラットフォームを作っていただければと思います。

＜委員＞：外国の人が伊賀市では増えていて、外国の料理を提供するレストランも増えています。伊賀市内で、外国の文化を体験できるということを観光の面でアピールできると思います。

＜会長＞：事務局から、その他で何か説明はありますか。

4 その他

増田委員より辞職に関する説明

（事務局）：それでは、長時間にわたり慎重審議をいただきまして、ありがとうございました。本日の審議会を終了させていただきます。